

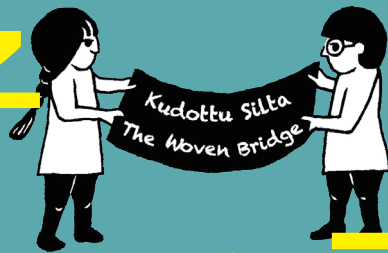
原方刺し子による フィンランド風 紙刺し子 ワークショップ

兵庫県宝塚市

9/13(火)

山形県米沢市

9/19(月)



フィンランド在住の
テキスタイルアーティスト2人が、
「原方刺し子」伝承者を招き*、
「フィンランド風刺し子」と
「和紙刺し子」のワークショップを
開催いたします!

*9/13(火)はZOOMで、伝承者をお招きします。



できれば1日を通してご参加ください。

会場1 兵庫県(宝塚市立文化芸術センター)

2022年9月13日(火)

- 午前の部(基礎編) 10:30~12:30
- 午後の部(発展編) 13:30~15:30
- ミニ展示会 15:30~16:30

会場2 山形県米沢市(伝国の杜)

2022年9月19日(月)

- 午前の部(基礎編) 10:30~12:30
- 午後の部(発展編) 13:30~15:30
- ミニ展示会 15:30~16:30

参加料 1,000円(材料費込) 参加人数 各回20名

午前のみ・午後のみの場合も、1日通して参加の場合も、
一律1,000円です。当日会場にてお支払いください。



制作イメージ



参加者は
刺し子をする布
(15cm×15cmぐらい)
をご持参ください。

※会場でも必要枚数
用意しております。

お申し込み方法

会場1 宝塚市立文化芸術センター 兵庫県 申込フォーム

9月9日(金)17:00までにお申し込みください。
参加希望時間を必ずご記入下さい。

お申し込みフォーム



会場2 伝国の杜 申込フォーム 山形県

*日本デザインマネジメント協会
ホームページ内、申し込みフォーム

9月16日(金)17:00までにお申し込みください。
参加希望時間を必ずご記入下さい。

お申し込みフォーム



各
報
会
場

兵庫県/宝塚市立文化芸術センター
TEL 0797-62-6800
住所 兵庫県宝塚市武庫川町7-64

宝塚市立文化
芸術センター
ホームページ



山形県米沢市/伝国の杜

TEL 0238-26-8000
住所 山形県米沢市丸の内1-2-1

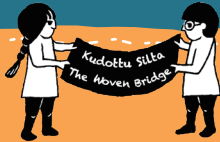
伝国の杜
ホームページ



ワークショップについて

山形県米沢市で生まれた武士文化を背景にもつ「原方刺し子」。今回のワークショップでは、「原方刺し子」伝承者のトークと共にその歴史に触れた後、フィンランド在住のアーティスト2人のサポートで原方刺し子をテーマとしたフィンランド風紙刺繍をお楽しみいただけます。

午後の部では、参加者が各自持ち寄った小さな古布に原方刺し子を施します。あなたのその一枚は後に他の作品と縫いつなぎ合わされ、コミュニティーアート“空飛ぶ絨毯”として完成し、フィンランドの美術館にて発表される予定です。



花雑巾 - マット - 一人でそして一緒に※2 Kukkarätti-matto- yksin ja yhdessä

右写真の「花雑巾」は、2022年6月にフィンランドのカンカアンパー・カレッジで開催された、テクスチャーアートの夏期講習に参加した学生たちが、それぞれに六角形の自分の端切れを用い、自分で模様をデザインし刺繍を施しました。これがこのコラボレーション作品の始まりです。

目指すのは、この「花雑巾」を縫いつなぎ、東西の異なる2つの文化を融合させた大きなフライングカーペットを作ろうというものです。作品は2023年末に完成し、ユヴァスキュラのフィンランド工芸博物館で「織り布と刺し布の架け橋 / Woven & Embroidered Bridge」プロジェクトの展示会が開催される予定です。その後、そのカーペットは別の場所に飛んでいくかもしれません…。 ++ ✨ ++

スケジュール・もちもの



● 午前の部・基礎編

10:30~11:00 米沢原方刺し子の伝統による紹介 ※1

11:00~12:30 原方刺し子 × フィンランドの説明と準備

・原方刺し子伝承者 遠藤きよ子さんのトーク

※1「会場1」宝塚市立文化芸術センターはZOOMとなります。

・原方刺し子の歴史（米沢市のおしよしな地域おこし協力隊員のキルナー琴乃スウ）

・フィンランド風紙刺繍（織り布と刺し布の架け橋グループ、フィンランド）

・原方刺し子の布刺繍（日本デザインマネジメント協会）

● 午後の部・発展編

13:30~15:30 原方刺し子 × フィンランド

・フィンランド風紙刺繍（織り布と刺し布の架け橋グループ、フィンランド）

・原方刺し子によるコミュニティーアート制作（織り布と刺し布の架け橋グループ、フィンランド）

● 15:30~16:30 ミニ展示会と交流会

〈持ち物〉

参加者は刺し子をする布（15cm×15cmぐらい）をご持参ください。（会場でも必要枚数用意しております）

刺し子について

刺し子とは

手縫いの基本技法である波縫いを用いて、糸で布を補強し、装飾する刺繍の一種である。

原方刺し子とは

特に東北の米沢で使われ、江戸時代の武家文化に融合した独自のスタイルを持つ刺し子の一種である。

原方刺し子の歴史

1600年代の江戸時代、武士は貧しく、男は畑仕事など肉体的労働で家族の食料をまかなっていた。妻たちは原方刺し子の技法で雑巾を縫い、玄関に敷き詰めた。夫が帰宅しこの刺し子の雑巾を目にした時、侍の誇りを思い出しそれを保って欲しいとの妻たちの願いが込められていた。1900年代前半はまだ原方刺し子は一般的だった。



遠藤きよ子作、原方刺し子の花雑巾



※2 原方刺し子。2022-23年、フィンランドと日本のテキスタイルアートワークショップで制作されるコミュニティーアート作品。2022年夏、カンカアンパーの講習でも指導したコミュニティーアート講師/テキスタイルアーティスト、アンヌッカ・ミッコラが発表したコミュニティーアート作品です。

「花雑巾」

詩・近梅子

直線縫いは威厳
三角は魔よけ
麻の葉は信仰と

五十に余る刺しの文様に
それぞれのおもいを抱かせて
四百年の歳月を
ぼろ布と共に生きてきた花雑巾

それは半農半士
刀をもつ手に鐵にぎらされ
米の貢税に泣いた
上杉藩下級武士のその妻
たちが

狂いたつような貧しさに居直って
針を懐剣にして
士族の身分に身構えた執念の業だ

そして悲しさや非難と呪符をも貼りつけ
日夜はげしく汚れた足を拭いつけては
ひとつの踏絵にもしたという

今宵
白いもめん糸と針と一枚のぼろ布が
わたしを遠い遠いそんな妻たちにする

アーティストプロフィール

Annukka Mikkola
アンヌッカ・ミッコラ



テキスタイルアーティスト&デザイナーでありアート教育の専門家。フィンランド伝統織物の専門教育を受けた後、伝統手工芸の新しい形での製品提案、アイデア集の出版など、フィンランドの手工芸文化の脱皮と進化に貢献した。近年は素材と手作業を媒体とし、異文化や環境を取り入れた形での総合的な創造性教育とコミュニティーアートに未来への可能性を見出し活動中。

Midori Tsunoi
角井 みどり

横浜生まれヘルシンキ在住のテキスタイルデザイナー&アーティスト。女子美術短期大学で絵画と版画を学んだ後、素材と手で物を作ることに魅力を感じウールの手織・手織りに転向。フィンランドでは伝統織物、伝統手工芸、パターンデザインの専門教育を受けた。テキスタイル製品デザイン他、イラストレーターとして作品を発表。手工芸をテーマにしたワークショップを開催。

「原方刺し子」伝承者プロフィール

Endo Kiyoko
遠藤 きよ子



原方刺し子は、米沢藩の下級武士（原方衆）の婦人の間から生活苦の中でも士族の誇りを忘れないために生まれ、現在まで受け継がれた裁縫技術である。遠藤きよ子さんは、40年以上にわたり、原方刺し子の第一の伝承者として、伝統の図柄に自ら創作した柄も取り入れた作品を数多く作られ、刺し子の素晴らしさを多くの人に伝えたいと、国内外の展示会への出展やワークショップを開催し、原方刺し子の普及・発展に尽力されてきました。